



あったかハートなお手紙

18



～未来をつくる 素敵なお手紙のみなさんへ～

今日は校長先生の子どもの頃の話を書き寄せてみます。

その1 きっかけは“おこづかい!”～日記の話～

校長先生のお父さんは、突然いろいろなもの(?)を買ってくる人でした。

信じられないかもしれないけど、その一つが「くじゃく」です。ある夜、「くじゃくを買ってきたぞ!」とおすめすのくじゃくを(*_*)校長先生の生まれはお寺です。しばらくして、境内の一角に、教室くらいのくじゃく小屋ができましたが、この時の驚きは忘れられません。くじゃくの卵の話や、小屋を脱走して大変だった話は、また今度にね。

くじゃくに比べたら、小さな話ですが、今の校長先生につながるお父さんの買い物が日記帳です。それは小学校4年生の12月のことでした。

「日記帳を買ってきたぞ!1年間書き続けたら3650円あげるからな」と。小学生にとって大金の3650円。もちろん1日も忘れずに書き続けました。

夏休みの家族旅行。日記帳を旅館に置き忘れてきたとき、おこることもなく、旅館にもどるために1時間ほど運転してくれたお父さんの横顔は今も忘れません。

そんな“3650円”からスタートした日記。中学校を卒業するくらいまで続け、その後、文章を書くことが好きになり、今こうして書くことも苦にならない校長先生がいます。何かが好きになる、何か得意になるきっかけがどこに転がっているかは、分からないものです。でも続けなければ、今の校長先生はなかったことでしょう。続けること…とても大切なことです。



その2 きっかけはおばあちゃんとの雑巾がけ～おまけの心の話～

“おまけの心”校長先生の好きな言葉の一つです。一緒に住んでいたおばあちゃんに教えてもらった言葉です。人のために何か“ちょこっと”。お礼なんか期待しない。相手のことを少し思い、自分ができることを少しだけしてあげる。そうすると、心があたたかくなる。

この話は校長先生が小学校3年生のころの話です。

そのころのお手伝いの一つが、お寺の本堂の廊下の雑巾がけでした。でも、お寺の廊下は、学校の廊下のように長く、幅が広い…。校長先生は、正直、“めんどろだなあ”そして“楽をしたいなあ=手を抜きたいなあ”と思いながら雑巾がけをしていたのです。

おばあちゃんと並んでふいていました。腕を左右に大きく動かしながら…。そんな時、ふと、そこまでの雑巾がけのあとから、あることに気付いたのです。それは、おばあちゃんが、廊下の横半分より少し多め、つまり校長先生がふかなければならない部分も、ふいてくれていたのです。おそらく15～20センチくらい多めに…。「おばあちゃん、僕の方もやってくれていたんだね」と言うとおばあちゃんがこたえます。「これはね“おまけの心”なんだよ…」と。

去年4月…山内小で出あった『あったかハート』という言葉。“おまけの心”と重なるこの言葉に運命を感じました。おばあちゃん、天国から見てくれているかな…。